

青い波北陽台

令和2年 5月29日 発行
長崎県立長崎北陽台高等学校
西彼杵郡長与町高田郷3672
TEL 095-883-6844
FAX 095-883-0776
発行責任者 西田 哲也

リスタート

教頭 山口 勇

風薫る五月。つつじ坂の緑も豊かに色付き、さわやかな風が吹き渡る良い季節となりました。新型コロナウイルス感染症の影響で、教育活動に変更が生じた新年度のスタートでしたが、学校休業や分散登校を経て、やっと通常の学校生活を開始し、本来の落ち着きを取り戻しつつあります。

さて、全国高等学校総合体育大会（インターハイ）の中止に続き、5月14日には長崎県高等学校総合体育大会（5月18日には長崎県吹奏楽コンクール）の史上初の中止が発表されました。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、依然として警戒を緩めることはできない状況のなか、「高校生の命と安全を守る」ことに重きを置いた苦渋の決断だったと思います。ただ、これまでこの大会を目標に少しでも速く、昨日よりも強く、チームをまとめ、厳しい練習を重ねてきた3年生の部員の皆さんのことを思うと「やむを得ない決断だった」の次にかかる言葉が見つかりません。

「部活動の集大成としての大会」「これまでの恩返しをする大会」「仲間と喜びを分かち合う大会」「昨年のリベンジを果たす大会」「後輩に思いを託す大会」それぞれの思いが詰まった大会の中止に、がっくりと肩を落とす3年生の姿に、私たち教職員も心の底から残念に思い、できる限りの支援を行うことを確認しました。今はこれまでの経験の中で培った体力や精神力、友情や思い出などの多くの財産を感じることも、悔しさや悲しさ等のやり場のない感情でいっぱいだと思います。かけがえのない仲間と気持ちを共有し、それぞれの心の中で解決を図っていくしか方法がないと思っています。

皆さんは一人ではありません。多くの関係者（保護者や先生方、学校関係者、地域の方々、高体連や教育委員会等）も皆さん一人一人のこれからを応援しています。自分の将来にどう向き合っていくか、そしてどう行動していくかをしっかりと考え、少しでも早く次の目標を見つけ、夢に向かって歩み出してほしいと切に願っています。

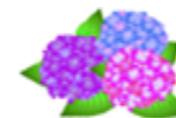
私たちは「今」という時間、「今日」という日を生きています。今日という日は、昨日から見れば未来でした。しかし明日になれば過去になっていく。過ぎゆく時間の積み重ねが人生です。また、これまでの当たり前が当たり前でなくなる日が必ず来るのも人生です。スコットランドの医師で小説家のクローニンが人生についてこう述べています。

人生は、何の邪魔者もなく歩めるような、まっすぐな廊下ではない。
迷路で、袋小路につきあたることもある。
しかし、信念があれば、必ずや道は開ける。
思っていた道ではないかもしれないが、
やがてよかったとわかる道が。

人生のシナリオを描くのも、主人公を演じるのも皆さん一人一人です。他人との比較ではなく、自分らしく、幸せな人生のストーリーをこれから描いてください。

校内理数科課題研究発表大会 ～県大会出場班決定！！

5月27日（水）に校内理数科課題研究発表大会が開催されました。休校のために研究が思うように進まず、発表の準備など大変な苦労がありましたが、当日は班で協力し合い、堂々とこれまでの成果を発表することができました。1、2年生の理数科からも積極的な質問が見られ、とても充実した発表会となりました。最優秀賞に『マキガイイソギンチャクの研究』、優秀賞に『微生物が電池になる？』と『ネギってすごい？』が選出され、『マキガイイソギンチャクの研究』と『微生物が電池になる？』の2班が県大会に出場（ビデオ審査）することになりました。



各学年より

「新たな日常」

1学年主任 下村 かおり

毎日、新型コロナ関係のニュースのオンパレードで、「三密」という言葉を耳にしない日はありません。英語では“Three Cs”（Closed spaces with poor ventilation, Crowded places with many people nearby, Close-contact settings such as close-range conversations）と表現するそうです（首相官邸ウェブサイト）。キーフレーズがいずれもCで始まるようにうまくまとめられているのですね。

「ソーシャル・ディスタンス」（social distance）という言葉がありますが、実は新型コロナ関係で使用するなら、「ソーシャル・ディスタンス」（social distancing）の方が適切であると最近知りました。感染予防戦略を表す用語で、感染拡大を防ぐため物理的距離を保つこと、という定義だそうです。前者は、社会での心理的圧迫がある距離という意味になるとのことです。言葉の使い方は難しいものです。

4月末からの休校、そして分散登校を経てやっと通常の学校生活が戻ってきました。いくつかの学校行事の中止が余儀なくされたことは大変残念ですが、皆で学校生活を営めることは当たり前のことではなく、特別なのだという気持ちで、日常にちりばめられた修養のチャンスを逃すことなく、前向きに毎日を過ごしてほしいと思います。

「学校再開」

2学年主任 守 慶直

5月上旬までの完全休校のあと2週間の分散登校を経てようやく通常の学校生活が戻ってきました。学校生活を全員で送れるありがたさを実感しながら毎日を大切に送ってほしいと思います。

運動部では、県高総体やインターハイ等、文化部ではコンクール等の中止に伴い3年生が志半ばにして引退し、2年生が中心となつての活動が始まります。これまでみなさんと共に汗を流し導いてくれた3年生や、当たり前前に部活動ができる環境に改めて感謝し、行動で恩返しをしてほしいと願っています。

通常に戻ったとはいえ、油断をするとまた以前のような大変な状況になることも考えられます。一人ひとりがそのことをしっかりと自覚し、この2か月ほとんど先に進むことができなかった学校生活をみんなで取り戻しましょう。

「けじめの時」

3学年主任 林 圭介

4月22日からの臨時休業と、5月11日からの分散登校期間を経て、ようやく平常の学校生活に戻れました。この間、全国・県内の大会の中止の発表が相次ぎ、部活動の有終の美を飾ろうとしていた3年生には、大変辛い状況となってしまいました。現在、かろうじて交流試合などが認められることになり、各競技で最後の大会や練習試合の機会が持たれることと思います。思い描いていた形での気持ちの整理のつけ方とはかけ離れていると思いますが、部活動ができることへの感謝の気持ちなどを忘れずに、前に一歩踏み出せるきっかけとすることができればと思います。

高総体の中止を受けて、予定よりも数日早く、放課後自学を開始します。学校生活は停滞していた感じですが、大学受験の時期は例年どおり、確実に近づいてきています。新入試制度が始まる年度でもあり、さまざまな困難な状況突きつけられているというのが現状です。学校生活において多くのものを失ってしまいましたが、せめて、卒業後の進路については、満足いくものを手にしてほしいと切に思います。卒業時における自分自身の理想像を、胸のうちに大きく掲げ、できることから真剣に取り組んでいきましょう。

6月の主な予定

- 8日（月） 放課後自学開始（3年）
- 13日（土） 1・2年土曜自学
- 13日（土）～14日（日）3年校外マーク模試
- 15日（月） 理数科ガイダンス（1年理数科）
- 18日（木） 生徒支援講話（薬物乱用防止）
- 20日（土） 3年県下一斉、1・2年土曜自学
- 22日（月） 1学期期末試験時間割発表
- 25日（木） 生徒会役員選挙
- 29日（月） 1学期期末試験（～7月2日）